

長野
みんな
いろんな
SDGs
2019-2020
SDGs活動紹介BOOK



NAGANO
SDGs PROJECT



SDGs とは

アイデアと工夫で
世の中をもっとステキに。

SDGsをご存じですか?
国連が定めた、世界をよりよく変えるための17の目標です。

世界を変えるなんて聞くと、
とても大変なことだと感じるかもしれません。
でも、SDGsの「S」は
「Sustainable=持続可能な」の頭文字。

だれもムリせず、だれにもムリさせず、
アイデアや工夫で、暮らしや働き方を変えて、
世界の問題を解決することが理想です。

私たちは、長野から世界を変えるため、
このプロジェクトを立ち上げました。

世界からみたら、ほんの小さな地域です。
でも、美しい山々や、元気なお年寄り、おいしい農産物など、
ここにしかないものがたくさんあります。
長野だから思いつくこと、続けられることがきっとあるはず。

一緒に世界を変えてみませんか。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsをそのまま日本語にすると「持続可能な開発目標」になります。2030年までに達成するべき目標を国連が17にまとめました。もう少し簡単に「ずっと続していく、世の中をよくするための目標」と表現すると、わかりやすいかもしれません。

世界では、大規模なものから身近なものまで、さまざまな取り組みが進んでいます。
ここでは、3つの先進事例をご紹介します。

アメリカ・サンフランシスコ

ゼロ・ウェイスト

デンマーク・コペンハーゲン

カーボンニュートラル

フィンランド・ヘルシンキ

教育改革

2020年までに、すべてのゴミをリサイクル活用させるプロジェクトです。ゴミの量によって税金の額が変わったり、1リットル以下のペットボトル入り飲料の販売を禁止したりと、さまざまなルールにより既に80%が再利用されています。

二酸化炭素の排出量と吸収量を同じにする取り組みです。風力や地熱などのエネルギーを活用したり、自転車で通勤する人を増やしたり、冷暖房の熱源を地域で分け合う「地域暖房・地域冷房」を進めて、地球温暖化に歯止めをかけようとしています。

フィンランドの教育はすべて無料。そして、「社会」や「理科」などの科目を分けずに物事を考える「クロスカリキュラム」を重視していて、子どもたちはテストのための勉強だけではなく、将来に備えた「学び方」が身についています。

みんなにもできるSDGs

世界を変えるSDGsって、実はとても身近で、カンタンなことから取り組めるんです。
「えっ、こんなこと?!」と、驚く人もいるかもしれません。今日から早速、一緒にやってみましょう!

使わない部屋の電気は消す

家 庭で使われる電気は、多くが発電所でつくられています。石炭や石油などの化石燃料を燃やした熱でタービンを回して発電する、もしくは大きなリスクが叫ばれてもなお各地で稼働を続ける原子力発電所で発電されています。

ソーラーパネルなどで自家発電した場合でも、家庭に蓄電池がないと、太陽の光が得られない状況（曇天時・夜間）では電力会社から供給された電気を使うことになります。

- ・隣の部屋、使ってなければ明るくなくてもよいのでは?
- ・パソコン、使ってないのに電源が入りっぱなしじゃないですか?

一小さな節電も、みんなでやれば大きな変化になります!



コンビニやスーパーでは、手前に並ぶ商品からとる



コ ンビニやスーパーでは、売れ残って表示の期限が過ぎたものは「廃棄」されてしまうことがほとんどです。おにぎりでもサンドイッチでも、牛乳でもバナナでも…。

- ・近所にあるコンビニ1店舗あたり、1日に出る食品廃棄物の量はおよそ15~16kg (!) と言われています。世界には飢餓で苦しむ人が、約8億1500万人もいるのに…です。

食品廃棄物の量が少しでも減るように、すぐに食べる食品は期限が近い「手前のものから」買いましょう。

一小さな行動も、みんなでやれば大きな変化になります!



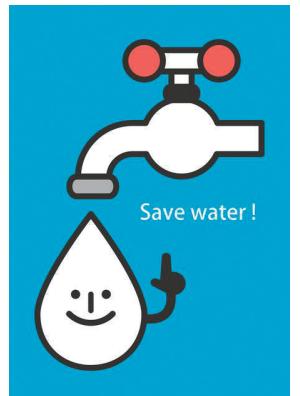
歯磨きの間は、水道を止める

世 界では、およそ9億人が水不足に苦しみ、衛生的な水が得られないことが原因で、毎日4,000人の子どもたちが命を落としています。一方、日本では蛇口をひねると「ジャーツ」とすぐにきれいで安全な（しかもおいしい）水が出てきます。なんて幸せなことでしょう。

・歯磨きに使う水は、コップに汲みましょう。

30秒間水を出しっぱなしにすると約6㍑の水を使いますが、コップに汲めば、約0.6㍑程度の水で済みます。1回、約5㍑の節水×1億人 = すごい量の節水に!!

一小さな節水も、みんなでやれば大きな変化になります!



少しでも地元で買い物を!



お 買い物は大型スーパーで、という人は多いですよね。遅い時間まで開いているし、いろいろなものが一度に買えるし、駐車場も広いし…でも地方では、商店街がどんどんさみしくなって「シャッター通り」なんて呼ばれる商店街も増える一方です。

- ・もしも地元の、個人経営の商店で買い物をすれば、お金は地域内に留まります。

地元から仕入れていれば地元の仕入れ先へ、地元の人々を雇っていれば、地元の従業員へお給料としてわたります。地元のモノや人を活用していればいるほど、そのお金は地域内で何回も使われることになり、何倍もの経済効果を生み出す可能性があります。

少額でもかまいません。地域を生かすために、地元での買い物を増やしましょう。

一小さな買い物も、みんなでやれば大きな効果になります!

ぜひ 今日から実践してみてください!

“NAGANO SDGs PROJECT”=“NSP”とは

NAGANO SDGs PROJECTは、行政や学校、企業、団体が一体になってSDGsを広め、進めていくためにスタートしました。プロジェクトの軸は広報事業、教育事業、支援事業の3つです。



NAGANO SDGs PROJECT

1 広報事業

知ってもらう

長野県でSDGsを知っている人はまだ少ないのではないかと思う。学んでもらうためには、まず知ってもらうことが必要。だから、新聞やWEBなどを通じて、県内での取組を紹介していきます。



紙面で活動を県内の皆さんにご報告

WEBサイト

県内のSDGs活動を集約しました

2 教育事業

学び、
考えてもらう

県内の学校に教材を配布したり、外部講師による出前授業を通して、何ができるかを考えもらいます。

出前授業



三輪小学校



小谷中学校

3 支援事業

実行に移して
もらう

大事なのは学んだこと、考えたことを実行に移すこと。そのため、「みんなのSDGs宣言」をしてもらいます。

「みんなのSDGs宣言」



2019年度の活動

2019年度も様々な授業、セミナーを行いました。

先生向けSDGsセミナー



学校の先生向けにSDGs勉強会を8月に2回行いました。

学校向け出前授業



講師の先生が長野県内の小・中・高校に出掛け、SDGsのための授業を15回行いました。

一般向けSDGsセミナー



一般の方々からも参加者を募り、SDGsに関する勉強会を開催しました。

SDGs教材を配布しました



長野県内の全小・中・高・特別支援学校に、SDGsの教材を配布しました。

新聞紙面で活動を紹介

信濃毎日新聞に1ページ広告を定期的に掲載。県民の皆さんに広く県内でのSDGs活動をご紹介しています。



NAGANO SDGs PROJECTは2020年度もSDGsを皆さんに伝えていきます。
持続可能な世界を実現するために、今できることをやっていきましょう。

もくじ

- はじめに 1
- SDGsとは 2
- みんなにもできるSDGs 3 - 4
- NAGANO SDGs PROJECTとは 5
- 2019年度の活動 6
- 長野県下高井農林高校 7 - 8
- 株式会社 ミールケア 9
- 特定非営利活動法人 長野県NPOセンター 10
- 小谷村立小谷中学校 11 - 12
- 天空の里 いもい農場 13
- スワコカヤック 14
- 長野県長野高校 15 - 16
- 認定特定非営利活動法人 長野サマライズ・センター 17
- コープデリ連合会 18
- 上田市立第二中学校 19 - 20
- ホクシンハウス 21
- あいおいニッセイ同和損害保険(株) 長野支店 22
- 長野市立東部中学校 23 - 24
- 企業スポンサー 25
- 2020年度のプロジェクト 26



学校レポート

長野県下高井農林高校

下高井郡木島平村穂高 2975 番地 TEL : 0269-82-3115



世界の問題を考えてもらうきっかけに。 農林祭で「SDGsバザー」開催

当時は買い物をする生徒さんにぎわいました



下 高井農林高校 国際研究部の部員は13人。ボランティア活動と国際交流の二つの活動を行っています。卒業生から使わなくなった運動靴を集めて洗濯し、ラオスへ寄付するほか、海外の方の考え方や感じ方に触れ、理解を深めようと、県内観光地で海外からの観光客にインタビューを行うなど、積極的に活動しています。

昨年度の文化祭・農林祭では、「SDGsカフェ」と題し、東アフリカの国・ザンビアでとれたザンビア米を使ってラオスの郷土料理「カオソイ」を食べてもらったりして、世界の食文化や暮らしを広く知ることができる場を作りました。

今 年度は、食べ残しや期限切れにより、本来食べられるはずの食料が廃棄される「フードロス」

について知つてもらい、考えてもらおうと「SDGsバザー」を企画しました。

事前の準備では、まずは校内や近隣地域の店舗や宿泊施設から、売れ残った商品や食材、使わなくなった日用雑貨などを出品してもらえるよう呼びかけました。地元のケーブルテレビで宣伝したこともあり、多くの方々から協力してもらうことができました。また、「フードロス」や「SDGs」の概念を知つてもらう良いきっかけにもなったようです。

集 また商品は食品や調味料だけでなく、食器や調理家電、ダイエット器具に大きな座卓などバラエティ豊か。会場の教室に所狭しと並べられました。

「集めてみると、ほとんど使っていない食器や日用品が予想以上に出てきました。普段の生活でいかに資源を無駄にしているかを知る機会になりました」と部長の佐藤あさひさんは振り返ります。

また、昨年度のカフェに続き、SDGsの達成のために自分たちができる事を書いてくれた人には「会計金額から50円引き」という特典もあり、付せんが貼り出された黒板には「節電節水」「食べ物を残さない」「エコバックを使う」「LGBTなどに対して理解を深める」と思い思いのメッセージが並びました。

国際研究部の活動以外にも下高井農林高校では、授業の一環で外来種の「アレチウリ」を駆除するなどSDGsに関連する活動がいくつも行われています。

国 際研究部の顧問で、JICA教師海外研修に参加した倉島沙織先生は「生徒たちには、自分たちの行動がSDGsの達成に貢献しているという実感、世界と繋がっているんだという実感を持ってもらいたいし、実感してもらう場をもっと作っていきたいですね」と抱負を語ります。

バザーでの売り上げはユニセフへの募金と、来場者に書いてもらった「自分たちにできる1ステップ」の実現のために使用すること。「先輩たちの想いを引き継ぎ、皆さんからもらったアイデアをもとに来年度も何か企画をしていきたい」と2年生の上原美璃杏（みりあ）さんは笑顔で答えてくれました。

来年度はどのような催しが行われるか、下高井農林高校 国際研究部の生徒たちの今後の活躍が楽しみです！

2018年度の「SDGsカフェ」の様子



卒業生から寄付された運動靴を一足ずつ、
ていねいに洗います





株式会社 ミールケア

企業活動レポート

長野市穂保 731-1 TEL : 026-295-8800



「食育」で、日本の美しい食文化を未来に伝える

ミールケアでは、3つの取り組みを通じて、日本食の素晴らしさを未来に伝えようとしています。

1つ目は「安全でおいしい給食を届ける」こと。同社では、地域の保育園・幼稚園に毎日5万食もの給食を提供しています。主食は「金芽米（きんめまい）」。玄米と同等の栄養価を持ちながら、白米のように食べやすいと子どもたちに大人気。さらに無洗米なので水質汚染を防げるお米です。

2つ目は「食育のプロを育てる」こと。子どもたちが楽しく食について勉強できるよう、畑でのイベント、劇の公演、親子クッキングなどの活動を続けるなかで、食に関する深い知識を持ち、わかりやすく伝える食育の先生「食育師（こうしょくし）」の資格を立ち上げました。半年程度の養成講座を受け、認定試験に合格すると取得できます。

3つ目は「さまざまな人が働きやすい制度を整える」こと。同社には、高齢者や障がい者が、自分の得意なことを活かして働ける「ミールマイスター制度」があります。また、女性が活躍できる会社を目指し、女性の採用や役員登用を積極的に行ってています。

人事総務部の牧野哲雄さんは、「健康的な食事の提供は、地域の未来を育てる第一歩。子どもたちに『食』の大切さを伝えるためにも、働く環境を整え、今の活動を継続することを大切にしたいです」と語ります。



子どもが学べば一緒に親も学ぶ、食育の相乗効果



子どもたちに食の大切さを楽しく学んでもらえるよう常に改善を重ねています



特定非営利活動法人 長野県NPOセンター

長野市大字高田 1029-1 エンドウビル 1F TEL : 026-269-0015



「誰一人取り残さない」ため、高校生の居場所をつくる

長野を、少しずつ、もっとよくする」を合言葉に、長野県NPOセンターでは2016年から「地域のために何かしたい」「新しいことを始めてみたい」と考える学生を集めて「ユースリーチ」という活動に取り組んでいます。

その中で、「Fourth Place」と名乗る高校生9人のグループは、SDGsの基本理念「誰一人取り残さない」世界の実現に向か、気兼ねなく立ち寄れる高校生の居場所をつくろうとしています。10月、長野市内の大学生が空き家を活用して運営する“長野駅前のカフェ&バー”“権堂の古着屋”“善光寺門前のフリースペース”の3軒を見学するまち歩きを開催。見学後にディスカッションを行い、アイデアを発表しました。「おしゃれな店が多い」「自分たちもやってみたい」とポジティブな感想が出る一方、「場所がわかりづらい」「一人だと入りづらい」といった声も。その結果、「他校生との交流の場」「勉強や休憩が自由にできるスペース」「イベント運営やショップ経営に挑戦できる場」といった、高校生のリアルな声が詰まったアイデアプレゼンとなりました。

長野県NPOセンターでは今後、10月に猛威を振るった台風19号災害のボランティア活動などを通じ、身近な場面からSDGsについてより深く考える機会をつけて行く予定です。

みんながローカルヒーローになる
市民活動拠点を運営しています



ながのこどもの城いきいきプロジェクトと協働して小中高生の居場所をつくります





小谷村立小谷中学校

学校レポート

北安曇郡小谷村千国乙 3800-1 TEL: 0261-82-2234



地元を学ぶ「小谷学」とSDGsの融合で未来をつくる

大人でもクリアが難しい SDGs カードゲーム



北

安曇郡小谷村。白馬エリアの北部、有名なスキーフィールドを抱える山あいの村に小谷中学校はあります。3年生を中心に、今年度から本格的にSDGsに取り組み始めました。

9月には3年生が「SDGsで地方創生を学ぶ」カードゲームで、県内の中学生として初めて「全グループの目標達成」を成し遂げました。このゲームは数人のグループごとにカードに書かれたミッションを実行、人口增加などの目標を達成させ、仮想のまちをよくしていくというものですが、実は大人でもめったにクリアできません。

大きな要因となったのは、小谷中学が以前から取り組んでいる「小谷学」という授業。毎週2時間ほどを使って自分たちの暮らす地域について研究し、地元のさまざまな魅力や課題を学んでいます。「小谷学」を通して得た、

地域でつながり、みんなで協力して地域をよくしていくという姿勢が、中学生ながらの快挙につながったのでしょう。

「小」 谷学の学習成果を発表する場が「総発」と呼ばれる文化祭です。村長や村議会議員などを来賓に迎え9月27日、各学年の発表会がありました。

1年生は、小谷村のいいところをオリジナルの句と絵にして「小谷かるた」を制作。「スキー場 毎年にぎわう 小谷村」「雪がとけ 春を知らせる ふきのとう」という説明的・情緒的なものから、「マジうまい ○○のパン 神レベル」といった地元の生徒ならではの視点のものまで、さまざまな個性が光っていました。

2年生は、「20年後的小谷村に住みたい?」というアンケートをもとにディベートを実施。「住みたくない派」から出た不満や課題について、村役場や村議会を訪問して質問をぶつけ、そこで得られた回答をわかりやすくグラフや図にしました。発表会ではそれぞれの質問に対し、生徒たちが「答弁」する形で実際の村の取り組みを紹介。その中で、村独自の支援等が手厚いことのPR不足を指摘したほか、観光で夏の仕事を創出することや、ビアガーデンの開設、ホームページの改善といった提案も生まれ、村議会議員や村長をうならせました。

3年生は「小谷の魅力を再発見し、発信しよう」という取り組みで、村の人口を増やすことを目標にしたPRポスターを制作。村民に聞き取り調査を行い、それぞれが発見した小谷村の良さをSDGsのゴールに当てはめて、村の魅力を表現しました。発表会では来場者にプレゼンテーションする「ポスターセッション」を実施。全面にイラストを使い「家族が団らんできるいい村だと思う」と村のあたたかさを表現した生徒、美しい写真を集めて「きれいな村」をビジュアルに訴える生徒など、PRポイントはさまざま。「ぜひ、来てみてください!」「ぜひ、住んでみてください!」と村外の人を想定して、聴衆に力強くアピールしました。

校 長の加藤好章先生は「これまでも総合学習として『小谷学』はありましたが、SDGsでつなげてみたら、課題に対して『どうするか、何ができるか?』をシンプルに考えられるようになったんです。これからも生徒達にはSDGsをライフワークにしてもらいたいですね。そして、みんなでよい小谷村をつっていってほしい」と語ります。

SDGsという新たなツールを通して、一人ひとりが考え、取り組んでいく「小谷学」は、村の未来をきっと明るく照らすでしょう。

昇降口には SDGsへの意識を高める掲示が



「20年後も小谷村に住みたい?」との問い合わせから始まった2年生の発表





天空の里 いもい農場

団体レポート

[運営事務局] 長野市篠ノ井布施高田 1140-1 TEL: 090-9358-3286 (西沢)



楽しみながら「環境・農業・食物を大切に思う気持ち」を育む

長 野市北西部の芋井広瀬地区にある「芋井社会会館（元・芋井小学校第2分校跡）。現在、芋井地区住民自治協議会所有施設）を拠点に、子どもから大人、シニアまで一緒に楽しめる「食農体験」の場を提供する「いもい農場」。主な活動は4~11月の月2回ほど。週末になると10歳位までの子どもたちとその家族がやってきて、苗植えや田植え、収穫、草取りなどの作業に加え、地域の散策、野草や生き物探しなど毎回さまざまな活動が繰り広げられ、普段子どものいない地域にたくさんの笑い声が響きます。活動後は、シニアボランティアも子どもたちと一緒にになって採れたて野菜などを調理し、世代も地域も超えて、みんなで楽しくいただきます。

牛糞と廃棄食品から作られた
有機肥料を使用



五味代表（中央）はじめ運営の皆さん



6 年目の2019年は登録人数60人、参加人数はのべ563人を数え、年々増え続けています。「回を重ねるごとに子どもたちが成長していく姿が何より嬉しい」。代表の五味美穂子さんは今後、SDGsをより身近で理解しやすい活動にしていきたいと語ります。活動はブログやフェイスブック、地域の回覧板等で随時発信。事務局の西沢和宏さんは「自己満足でなく、積極的に発信し共感者を増やすことが私たちの使命。遊休農地、限界集落の現状を知ってもらいたいし、持続可能な社会のために、地域の方との交流もより深めていきたい。自分たちも楽しみながら続けていきます」と笑顔で話してくれました。



スワコカヤック

団体レポート

諏訪市湖岸通り 2-7-21 TEL: 090-7711-3233



カヤックを通して、諏訪湖を「意識する人」を増やしたい

2 2019年4月に始動した、諏訪湖畔「初」のカヤックツアー。「普段見ることのない景色が見えるのがカヤックの魅力。水面に近く、体験後に残る浮遊感と達成感! 最初は怖がっていた子どもも、2時間で成長がみられます」。地元・諏訪出身でスワコカヤック代表の井川竜太さんは手ごたえを感じています。

水辺に楽しそうな人がいると
湖もきれいに見えます



諏 訪湖は「きれい」というイメージがないためか、観光船や足こぎボート以外に湖畔の遊びはほとんどなく、近くに住んでいても、わざわざ行く場所ではなかったそうです。しかしカヤックで湖にこぎ出すと、誰もが「思ったより汚くないね」と気づきます。

生まれ育った地への
恩返しがしたいといい井川さん

とはいって、現在でも夏は、大繁殖する水草の一種ヒシに絡まったごみが環境に悪影響を与えています。そこで、諏訪湖花火大会の翌日「トレジャーハントカヤック」と題し、カヤックに乗ってゴミを集めるイベントを開催。2時間で45kgの袋が、10袋もいっぱいになったそうです。



遊 びながら環境を見つめられるカヤックツアー。「今後はガイドを増やして、カヤックに接する機会、諏訪湖に関わる人をもっと増やしたい」と語る井川さん。「諏訪湖を使ってくれる人、意識する人が増えれば湖もきれいになるし、仕事が増えれば人も増えますから」。環境を良くするだけでなく、まさに「持続可能な地域づくり」を目指しています。



長野県長野高校

学校レポート

長野市上松1丁目16-12 TEL: 026-234-1215



NAGANO GLOCAL PROJECT 「SDGsで長野の2030年を考える」

発表会に向けて議論にも熱が入ります



平成26年にスーパーグローバルハイスクール（SGH）に指定された長野県長野高校。独自のカリキュラムである「長野高校グローバルリーダー育成プログラム」を設け、将来、地域や世界で活躍するリーダーの育成に力を入れています。

その一環として、2学年では「SDGsで長野の2030年を考える」と題し、地域課題の研究に取り組みました。5人が1組の全56チーム。各チーム試行錯誤で、意見を出し合いながら個人やグループでフィールドワークを行ったり、企業や団体に取材に行くなど、手探りで研究をまとめました。

10月10日（木）には、研究に協力してもらった企業・団体の方を招き、1年生に向けた研究成果の発表

会が行われました。「私たちはプラスチックごみを減らしたいと思った」チームは、年間約10万匹の海洋生物が海に流されたプラスチックによって命を落とすという悲惨な現実に着目。実際に学校近くの川でごみ拾いを行ったところ「レジ袋」が最も多く捨てられていたことから、レジ袋の利用を減らすアイデアをチームで検討しました。

発表では「レジリージェンスプロジェクト」と題し、長野高校の生徒がお店でレジ袋を断るたびにポイントがたまり、たまつたポイントは生徒会でプレゼントと交換できるなど具体的なアイデアが披露されました。

「お父さんは何をしているの？」と非常にインパクトのある名前を掲げたチーム。女性に比べ男性の育休取得率が非常に少ないと疑問を感じ、男性の育児参加が進んでいる都内企業を2社取材しました。

その結果、「有給休暇」がポイントであることを発見。消化していない有給休暇を育休に充てることを企業が勧めることで、男性社員も周囲への遠慮や経済的負担を気にせず、積極的に育休をとることができるようにになったとのこと。ただし、社員数が少ない中小企業では難しく、国による義務付けや補助が必要であることを訴えました。

まとめとして「育児参加にとどまらず、性を利用して都合よく『区別』しているのが日本の問題。『女だから』『男だから』をなくすべき。まずは自分たちの国のジェンダー問題をなくしていかなければならぬ」と力強く締めくくり、聴く人の共感を集めました。

今回のプロジェクトを通して、ある生徒は「SDGsは自分とは無関係で世界の『偉い人』たちが考えればいい問題だと思っていた。しかし、実際は私たちにも出来ることが多くあることを知った」と言います。また、指導にあたったプロジェクト顧問の小宮山潤先生は「生徒たちには、チームでの研究を通して経験した『協働』の難しさ、やりがい、そして楽しさを忘れずに今後の人生に活かしていくほしいですね」と振り返りました。

発表会では、先輩たちの言葉に真剣に耳を傾けていた1年生。先輩たちの姿は後輩にとって大きな刺激になったはずです。

課題解決に向けて
各チームから具体策がたくさん提案されました



1年生からの質問や意見をもとに提案内容を改善し、11月には台湾で地元高校生や教育委員会の方に英語でプレゼンテーションしました



1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに
5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう
11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう
15 陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう	



認定特定非営利活動法人 長野サマライズ・センター

団体レポート

塩尻市大門一番町3-4 2階 TEL / FAX : 0263-52-4148



ITを活用した「文字通訳」で聞こえない世界の窓を開ける

長 野サマライズ・センターはITを活用して「文字通訳(要約筆記)」つうやくの普及に取り組んでいます。聞こえに不自由を感じている方がタブレットやスマートフォンを通して、音声を文字情報として瞬時に受け取ることができるサービスです。

聴 覚障がいを持つ方は軽中度の方も含めると人口の10%いるといわれていますが、外見ではわかりにくいこともあって、まわりに理解されず援助を受けづらい状況にあります。聞こえに不自由のある子どもの9割が普通学校に通っていますが、先生の「声」に頼りがちな授業では、他の子と同じように学習は進みにくいでしょう。

えんかく 遠隔での「文字通訳」は、先生の声をセンターで受信し、スタッフが文字入力してすぐさまサービスを受ける子どもの端末に送信します。最近では文字情報がメガネに表示されるスマートグラスも登場。「先生はこんなにたくさん話をしていたんだ」と、初めてサービスを受けた子は驚くそうです。授業がわからぬみんなと一緒に学校で学ぶことも楽しくなります。しかし、IT機器を使うことが「他の子と違うから不公平だ」など、まだまだ学校にも社会にも理解が浸透していません。

本 当に平等な世の中を目指して。すべて人の社会参加を文字通訳でサポートすることで、誰もが暮らしやすいまちづくりを目指し、活動を続けます。

同時通訳のようなスピードでテキストを端末へ送ります



文字情報と視覚情報を同時に確認しながら行事にも参加できます



- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 8 働きがいも経済成長も
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 16 平和と公正をすべての人に

コープデリ連合会

企業活動レポート

埼玉県さいたま市南区根岸1-4-13 CSR推進部 TEL : 048-839-1849



- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 17 パーナーシップで目標を達成しよう

組合員とともに、豊かな食卓と地域をつくる

コ 一コープデリ連合会は、関東信越1都7県の生活協同組合(生協)でつくる組織。長野県は、コープながのが会員生協です。「ともにはぐくむくらしと未来」を理念に約500万人の会員(組合員)の願いに応えるため、食を中心とした宅配・店舗事業、また、福祉・保障などさまざまな事業を行っています。「コープデリの組合員さんは、昔から、食・環境・平和について関心が高くエシカルな考え方を持ちの方が多いんです。私も含め(笑)」とCSR推進部の宮川和之さん。安心、安全な商品を組合員に届けるために、生産者やメーカー、作り手とのパートナーシップを大切にし、困り事を一緒に解決することを大切にしています。

ちょっとしたキズやサイズ違い、天候被害を受けた規格外農産物を、理由を説明して販売したり、海岸に海洋プラスチックごみが漂着する水産物の産地に商品の売上の一部を寄付し処理費用にあてたり、田んぼを守るため、米の生産者に豚の餌用のお米をつくってもらう「お米育ち豚プロジェクト」を進めたり(上写真)、様々な取り組みをしています。

組 合員も積極的に地域で活動していて、家庭で眠っている商品を集め、フードバンクに提供するフードドライブや、無言館、松代大本營地下壕見学を通じた平和活動、農林業を体験して、食や環境について学ぶ「田んぼ・畑・川・森のがっこう」を開催したりしています。

「SDGsの考え方や目指す方向はコープデリの理念と同じです。さまざまな方々と『ともに』ハッピーをはぐくみたい』と宮川さんは話しています。

食品だけでなく文房具も集めてフードバンクに寄贈しています



長野県のさまざまなフィールドで食・環境・自然について学びます





上田市立第二中学校

学校レポート

上田市大手 1-1-45 TEL : 0268-22-0103



生徒会が真剣に取り組み、全校で結果を出す

夏はペットボトルのほか、タバコの吸い殻が多く捨てられていました。こんなところにも!



上田市の中心部、上田城跡公園の目の前にある上田市立第二中学校。歴史ある街の生徒会は2019年度の主な活動としてSDGsをテーマに掲げ、具体的に、そして積極的に取り組みました。まず自分たちの身近なところでSDGsに近い活動をしている団体を知ることから始めました。また、例年行っているアルミ缶回収などの活動も、SDGsの視点だとさまざまな可能性が見えてきました。生徒会の中心となる「総務会」で取り組みを6つに絞って担当役員を決め、どう実行するか、進捗はどうか、毎回会議で確認し合いながら着実に歩みを進めました。

1) 上田城跡公園内の清掃活動

地域のボランティア団体「上田城クリーンアップクラブ」が開く上田城の清掃活動に参加。全校に参加を呼びかけ、環境保全への意識を高めました。毎月の参加人数は多くなかったものの、何度も参加してくれるリピーターもいて「地域貢献のつもりが、やってみたら楽しかった」「きれいに見えていたのは『誰かのおかげ』だったことに気づいた」と前向きな感想が聞かれました。

校内の環境美化は、心の美化にもつながります



2) 花生け隊

校内に10年以上、人知れず花を生けてくれる人がいます。卒業生の滝澤さんは、世界中にたくさんいる“誰かのために”活動する人の一人。彼女の思いや考えにふれながら校内の環境を整えることが、地域だけでなく国、世界をより良くすることにつながると考え、一緒に「花生け」活動を行いました。

3) 障がいをもつ人たちや外国语学校の生徒との交流

地域のさまざまな方と交流会を企画しました。外国语学校の生徒7人が参加してくれた交流会では、ジェスチャークイズ、伝言ゲーム、フルーツバスケットなどをみんなで楽しみました。「外国人はオープンで壁がなく、しげき文化の違いを感じました」とたくさん刺激をもらいました。

異文化交流は新鮮でした。
みなさん日本語が上手なのにビックリ!



4) チャリボン

地元・上田市を拠点にインターネットで古本の買取・販売を行う会社の事業で、古本を集めて換金し、NPO・NGO団体へ寄付する活動「チャリボン」に注目しました。生徒の家族からも協力を得て、全校で300冊ほど集めました。

「チャリボン」で換金される古本



目標を設定し、皆で達成させた
アルミ缶回収



5) アルミ缶回収で得たお金の一部を 「ユニセフ支援ギフト」に

毎年行うアルミ缶回収ですが、今年は学校のために使うだけでなく、一部を「ユニセフ支援ギフト」として贈ることにしました。ワクチン、テント、勉強道具など、世界の子どもたちに喜んでもらえるギフトを自分たちで選ぶことで、貧困・教育・衛生など世界の問題を全校に伝え、関心をもってもらうことができました。

昇降口に掲示される活動の報告。
少しづつ浸透しました

6) 牛乳パック回収で地域貢献

業者に引き取ってもらい、10kgで2個のトイレットペーパーと交換。地域の福祉施設に送ることで地域貢献しました。環境への負担を軽減し、リサイクルへの意識を高められました。



これらすべての活動は常に昇降口に掲示して、参加者の募集や活動の成果を発信しました。生徒会顧問の下平健吾先生は「次期の役員がどう引き継いでくれるかわかりませんが、二中の取り組みとして今後も継続して活動していくもらいたいです」と希望を語っています。



ホクシンハウス

企業活動レポート

長野市南長池 228-5 TEL : 026-244-3386



快適も、健康も。 次の世代に託せる「サステイナブルな」住まいづくり

暑 い夏も寒い冬も、エアコン1台だけで家中快適一

そな理想の住まいを約40年前から提供し続けるホクシン
ハウス。秘密は独自開発の「FB工法」にあります。

床・壁・天井の壁体内空気層に床下のエアコンの空気を循環させ、
その輻射熱で室内を快適に保つ工法で、グッドデザイン賞、省エネルギー住宅を選定する「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー2016」では最高賞の大賞を受賞し全国でも高評価を得ました。部屋ごとの寒暖差がないので、体への負担が軽減。一般的の住宅はもちろん、高齢者施設や医療施設等での需要も高まっています。

FB 工法で建てる「グリーンシードハウス」は、家の本体価格と毎月の光熱費、将来の修繕費、医療費の総額を設計段階で明示、家をトータルな視点で比較検討できる企画住宅です。「毎日暮らす家だから、快適さはもちろん住んでからのコスト（光熱費）も重要。満足がずっと続く家をご提案したい」と語る、社長で一級建築士の相澤晴行さん。「ライフスタイルが多様化し、少子高齢化、人手不足という現状の中、これまでのように数十年で建て直すのではなく、次の誰にでも負担なく引き継いでいくような更新性の高い家が必要。今後、メンテナンスゼロの家を目指していきたいです」



社内も風通しがよく
活気に満ちています



森林の里親事業など
森林保全・整備活動も



あいおいニッセイ同和損害保険(株) 長野支店

企業活動レポート

長野市大字中御所岡田町 53-7 TEL : 026-227-1173



スポーツを通じた“心のバリアフリー”学習

あ いおいニッセイ同和損害保険は14年前から障がい者スポーツ支援を開始しました。現在では「観て」「感じて」「考える」をスローガンに、社員みんなで大会を見に行き、選手たちを応援したり、ウェブサイト「AD Challenge Support」を通じて「スポーツ振興・障がい者スポーツ支援」の取組みを発信しています。また、同社には20人のアスリートが所属していて、会社が練習環境などを整えています。

A 「AD Challenge Support」で子どもたちの人気を集めているのが、同社に所属する障がい者スポーツのアスリートが講師を務める体験授業。車いすバスケットボールの日本代表・秋田啓選手をはじめ、耳の不自由な人による「デフサッカー」や「視覚障がい者柔道」など、さまざまな競技で日本のトップを走るアスリートたちが、スポーツの楽しさに加えて、障がいのある人とどう接したらいいかを伝えています。

同 社長野支店の千葉晃久さんは「体験授業参加者からは『アスリートの生き方に感動した』『障がい者を身近に感じるようになった』等といった声が寄せられています。こういった学びの機会をより多くの人に提供していきたいですね」と話します。授業は、ボッチャなど誰でも気軽に楽しめるスポーツでも実施することができます。

デフサッカー松本卓巳選手
手話による体験授業



支援学校ボッチャ体験





長野市立東部中学校

学校レポート

長野市桐原2丁目8-1 TEL: 026-241-2271



SDGsの学習と実践 自由な発想で、できることを形に

校外に出て市民の方にインタビューを行うグループも



東 部中学校2年では、総合学習の時間を使ってSDGsの学習と実践に取り組みました。

1学期は事前学習として、昨年6月のG20軽井沢でスピーチした上田高校の生徒を招いてお話を聞いたり、プラごみで命を落とす海洋生物の姿や途上国での貧しい現状を映像で見たりするなど、いま地球で起きている問題や課題を知り、SDGsについて理解を深めました。その後、17の目標から自分が興味のあるテーマを選択。同じテーマを選んだ生徒同士でチームを組み、各自が自由な発想で活動内容を考え、11月22日には全29チームが5・6時間目を使ってプロジェクトに取り組みました。

家 庭科室では、「つくる責任・つかう責任」をテーマにしている「気づいてほしー's」が各クラスから

不要になったタオルを回収し、ミシンで縫って雑巾に。また図工室では、多くのチームが校内に掲示するポスター制作に取り組んでいました。「貧困をなくそう」をテーマに活動する「World Happy」グループは、貧困に苦しむ子どもたちのために、募金などできることから行動に移そうといったメッセージとイラストを思い思いに描きました。

その図工室の真ん中で、一生懸命新聞紙を折っているチームは「We like sea!」。海洋生物を守るため、身近なところからプラスチックの使用を減らせないと検討したところ、給食後に「牛乳瓶のフタ」を回収しているビニール袋に注目。ビニール袋の代わりにフタを入れる箱を新聞紙で作り、2学年全クラス分用意しました。さらに、箱の折り方を描いたポスターも配布し、各クラスが必要な際に自分たちで制作できるようにすること。まさに「サステナブル=持続可能な」取り組みです。

そのほか、校内を見回って無駄な電気を消したり、校外に出てごみや落ち葉を拾うなど、各チームがテーマに沿った実りある時間を過ごしました。

こ れまでの学習を通して、学年主任の村上恵美子先生は「当初は、『SDGs』という言葉も概念も知らなかった生徒たちですが、気が付けば友達同士、普段の会話で『SDGsだよ』『SDGsだから』という言葉が自然と出るようになりました。これには驚きましたね」。さらに来年度に向けた生徒会選挙では、候補者全員の公約の中に「SDGs」というキーワードが出たそうです。2学年を中心に今後、東部中学校のSDGsのムーブメントはますます大きく、力強くなっていくことでしょう。

思い思いのメッセージを込めて



美術の先生のアドバイスも受けながら、ていねいに描いていきます



NAGANO SDGs PROJECTは
下記企業スポンサー様のご支援をいただいて
運営しています

あいおいニッセイ同和損保
MS&AD INSURANCE GROUP

いっしょに、明日のこと。
Share the Future
SMBC日興証券

キッセイ 薬品

EPSON
EXCEED YOUR VISION

大和証券
Daiwa Securities

それ、野村にきいてみよう。
野村證券

ホクシンハウス

食育と給食道で「世界」へ発信
株式会社ミールケア

CareerTrusting

炭平コーポレーション株式会社
SUMIHEI

TAKAMISAWA
株式会社 高見澤

ShinEtsu Group
長野電子工業株式会社

fujikoshi Machinery Corp.

マルイチ産商

株式会社岩野商会

エムケー精工

コープながの
食卓を笑顔に、地域を豊かに。

信州ハム

あなたの未来を強くする
住友生命

SECOM
セコム上信越

一生懸命のパートナー
第一生命
Dai-ichi Life Group

株式会社 東芝
長野支店

IZUMI
マクセルイズミ株式会社

株式会社 みすずコーポレーション

MIZUHO
みずほフィナンシャルグループ

株式会社 守谷商会

林友

ながのアドビューロ

今後も長野県内の多くの方々にSDGsを知り、行動していただくためにも皆さまのご協賛が必要です！

協賛サポーターの詳細については公式WEBサイトをご覧ください。

長野SDGsプロジェクト | 検索

2020年度も様々な学校向けの
プロジェクトを予定しています

※スケジュールの日時は変更になる場合がございます

みんなのSDGs宣言 for EDUCATION 2020

- 誰でも取り組めることがSDGsの魅力。
クラスでもグループでもOK！
みんなでSDGs宣言をして活動しよう！
- 4月募集開始
 - 宣言募集締切 11月末
 - 宣言報告募集開始 12月
 - 報告募集締切 2021年2月中旬

出前授業

- SDGsに関する様々な授業を
ご用意いたします。SDGsの導入に
ぜひご活用ください。

各種SDGsセミナー

- SDGsを学びたい先生のセミナーなど
各種セミナーを計画中です。
詳細は公式WEBサイトでご紹介します。

SDGsポスターコンテスト

- SDGsを題材としたポスターを募集します！
募集作品は公式WEBサイトでご紹介。
 - 5月募集開始
 - 募集締切 9月末

SDGs自由研究

- 自由研究の課題はSDGs！
テーマを決めて取り組み、まとめてみよう！
 - 募集締切 9月末

他にも様々なイベントを企画中！
最新情報は公式WEBサイトでご紹介しますので、
ぜひご確認ください。

長野SDGsプロジェクト | 検索

主 催

長野SDGsプロジェクト実行委員会

長野県、(一社)長野県経営者協会、長野県中小企業団体中央会、

(一社)長野県商工会議所連合会、長野県商工会連合会、(一社)長野県環境保全協会、信濃毎日新聞社